



ダッシュ

NPO法人目黒体育協会会報 発行編集/NPO法人目黒体育協会
発行日/令和3年1月31日

『みんなでつくろう体育協会 生きがいと健康の輪』

NPO法人目黒体育協会 スローガン



『新年に寄せて』

NPO法人目黒体育協会

会長 藤岡 直彦



謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。日本国内においては、昨年初頭より感染の広がりが始まった新型コロナウイルスの猛威は、第三波の到来という形で新しい年を迎えた現在も続いています。

その様な状況下において、区立体育館を管理運営している職員たちは、区民の皆様が安心して利用できるよう、感染防止のため日々弛まぬ努力をしています。いつなごき自分自身にふりかかるかも知れない感染症に立ち向かい、利用者を守っている姿を見ると感謝の気持ちでいっぱいになります。

このコロナウイルスによって世の中にも様々な変化がもたらされています。世界的な技術革新によるAI化やIT化などデジタル化の整備が加速しますが、アナログ人間である私には理解が及ばないことながら、今後は団体協も変わっていかねばならないと思います。この問題につきましても、区スポーツ振興課にご指導をいただきながら進めてまいりたいと思います。

また、過日東京都体育協会から団体の名称変更について打診がありました。日本体育協会はすでに日本スポーツ協会に名称変更をされており、都道府県の体育協会では34団体が「スポーツ協会」に変更しています。しかしながら名称変更は大変な作業を伴います。いずれは目黒スポーツ協会の名乗らなければならぬ時が来ると思いますが、まずは皆様からのご意見をお伺いしていくことから始めたいと思っておりますので、どうぞご意見をお寄せください。



『年頭のごあいさつ』

目黒区長 青木 英二



新しい年を迎え、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

平素から、目黒体育協会の皆様には、目黒区体育祭の運営をはじめとしたスポーツ事業を通じて、区民の健康増進、青少年の健全育成にお力添えいただき、厚く御礼申し上げます。また、昭和23年に結成以降、42団体が加盟する大きな組織へと成長し、長年にわたって本区のスポーツ振興の中心としての役割を担っていただいておりますことに、敬意を表します。

さて、昨年は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催延期が決定し、「目黒シテイラン」をはじめ、様々な区のスポーツイベントが中止となりました。コロナ禍の中、感染予防対策を講じながら大会の開催や体育館の管理運営などスポーツに親しむ機会の提供に努めていただいたことに、感謝申し上げます。

五輪イヤーとなる今年は、大会成功に向け、聖火リレーをはじめ、テコンドーの練習会場となる中央体育館や機運醸成事業などを通じて、体育協会の皆様とともに盛り上げてまいります。

最近の明るい話題として、目黒学院ラグビーフットボール部が、新しい生活様式を实践しつつ、3年振りに全国大会出場を決めたこともあり、区としても、区民のだけれども、スポーツに親しむことができ生涯スポーツ社会の実現に努めてまいります。

結びに、本年が皆様にとりまして、希望に満ちた輝かしい年となりますことをご祈念申し上げます。

『体を動かすことの素晴らしさを』

目黒区教育委員会

教育長 関根 義孝



明けましておめでとうございます。

NPO法人目黒体育協会の皆様には、日頃より目黒区の子どもたちのスポーツ振興にご尽力いただき、深く感謝と御礼を申し上げます。

さて昨年は、新型コロナウイルス感染症対応として、区立学校が一斉臨時休校になり、外出をすることもままならない状況となりました。子どもたちの体力低下も心配されたところですが、六月に入って休校が明けると、学校に子どもたちの元気な声が戻りました。「三密」を避ける等の感染症対策を講じながら、休校期間を取り戻すかのように、子どもたちが楽しそうに体を動かして遊んだり、スポーツをしたりしている様子が見られるようになりました。今般の状況を経験し、貴協会が掲げるスローガンにある「生きがいと健康の輪」の大切さ、体を動かすことの素晴らしさを改めて強く感じたところです。今後も、子どもたちのために、様々な場面でお力添えをお願いいたします。

結びに、NPO法人目黒体育協会の皆様の益々のご健康とご多幸をお祈りして年頭のご挨拶とさせていただきます。



『スポーツを通して活力あふれるまちへ』

目黒区文化・スポーツ部長

竹内 聡子



明けましておめでとうございます。

目黒体育協会の皆様には、日頃より目黒区のスポーツ振興に多大なるご協力をいただき、心から感謝申

し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受けて、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が延期となり、目黒区の最大のスポーツイベントである目黒シティランをはじめ、様々なスポーツイベントが中止となりました。スポーツのない生活の味気なさを感じるとともに、あらためてスポーツの持つ力に気づかされました。

今夏の東京オリンピック・パラリンピックでは、中央体育館がテコンドーの公式練習会場となるほか、7月22日には目黒区で聖火リレーが行われます。安全・安心を第一に、区民の皆様の心に残る大会となるよう、力を尽くしてまいります。

今後とも、スポーツを通して活力あふれるまちを目指し、様々な取組を進めてまいりますので、ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。



『新しい生活様式』

目黒区立中央体育館

館長 金山 和也



明けましておめでとうございます。皆様には良いお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

当館は、約2年間の大規模改修を終え、より素晴らしい施設となつて昨年4月にオープンいたしました。

区内で一番大きな体育館として、競技場はじめ、格技場（剣道場・柔道場）、弓道場、エアリアル場スタジオ、トレーニング室など様々な種目の活動場所を提供することで、区民の皆様のスポーツへの幅を広げ、健康維持につながる場として貢献できるところと思っております。

また、バリアフリー（大型エレベーター2基の設

置、車いす対応）の充実により、今まで以上に利用しやすくなりましたので、ぜひ多くの皆様のご利用をお待ちしています。

昨年は大きなイベントについて計画通りに実施できませんでした。一般公開・貸切・各種の教室などの定員を設けるなど、感染症対策を講じて、皆様が安全に楽しんで活動できるようスタッフ一同努力してまいります。

本年が皆様にとって健康で幸多き年となりますよう祈念申し上げます。



『新年によせて』

目黒区立区民センター体育館

館長 土屋 圭吾



明けましておめでとうございます。いつも当施設をご利用いただき、誠にありがとうございます。またコロナ禍の下、皆様には様々なご協力を賜り感謝申し上げます。

我々ミズノグループは、スタッフ一人一人が接遇の心を持ち、サービス向上を目指して、地域の更なる魅力を引き出せるような充実したプログラムサービスの提供を心がけております。さらに、これらのサービスを通じて、生きがいづくり、健康づくりを進めることが出来るよう、児童から高齢者、障がい者の方々まで誰もが参加できる活動の場や、スポーツに触れ楽しめる機会を提供してまいります。

また、東京オリンピック、パラリンピック種目の体験教室や未体験スポーツ種目をご紹介します。地域の方々のスポーツ参加意識高揚を推進します。

区民の皆様には今後もご自身の健康には十分ご留意いただき、区民センター体育館をご愛顧下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。



『2021 GO!TO!スポーツ!』

目黒区立駒場体育館

館長 幕田 賢伸



明けましておめでとうございます。日頃よりスポーツ推進及び体育館事業の指導にご尽力いただき心より感謝申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大により、オリンピック・パラリンピックが史上初の開催延期となったほか、外出自粛など不安と混乱の一年となりました。体育館でも感染防止措置、利用人数の制限など新しい形に対応した運営となりました。

いまだ油断の出来ない状況下で、新型コロナウイルスに打ち勝つためにも、本年は、感染防止策を講じ、スポーツを実施することで自己免疫力を高め、余暇活動の充実を図っていただくとともに、「東京2020」の成功を祈念し、「GO!TO!スポーツ!」の年にしてまいりたいと思います。

今後、体育協会の皆さまのご指導、ご協力をよろしくお願い致しますとともに皆さまのご健勝と益々のご発展をお祈り申し上げます。



『今年こそ、心ゆくまでスポーツを!』

目黒区立碑文谷体育館

館長 小林 一政



新年おめでとうございます。昨年度はコロナウイ

ルス感染拡大防止のため、大会や会合がことごとく中止され、体育協会の方々とお目にかかる事の少ない年でした。事業の中止の決定や実施するための予防対策を整える等のご苦労も多かったことと思いません。一般公開事業再開の折には、いち早く指導者を派遣頂き、ありがとうございました。

現状、コロナウイルスの脅威が完全に過ぎ去ったわけではありませんが、区民のスポーツニーズは高く、感染予防に細心の注意を払いながらも、以前の様なスポーツ環境を提供すべく努力している所です。今年こそ、心ゆくまでスポーツを楽しみ、健康増進・リフレッシュして、感染症など何処行くもの!と言えるような活動になる様、体育協会各団体様と手を取り合って取り組んでいきたいと考えております。本年もご指導ご協力の程、よろしくお願いいたします。



『地域の皆様のために』

目黒区立八雲体育館

館長 澁谷 宣紀



新年おめでとうございます。NPO法人目黒体育協会関係者の皆様には、日頃より当館の一般公開事業をはじめ各イベントの運営にご理解とご協力を賜りまして、年頭にあたり改めて感謝申し上げます。

昨年来より続いている新型コロナウイルス感染症への対策は、これまでの体育館利用や、その在り方を大きく変えるものとなってしまいました。当館運営スタッフにおいても様々な試行錯誤が続いている状況です。今後も皆様のご理解ご協力をいただきな

から感染症対策に万全を期し、安心安全を確保してまいります。

そして何より、地域の皆様が新たな時代を豊かに生きていくための健康の維持増進に寄与していくとともに、目黒区のスポーツ振興に微力ながら本年も引き続き貢献して参りたいと存じます。



『スポーツ施設再開への熱望』

目黒区立砧野球場・サッカー場

場長 村山 嘉一



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

さて、砧野球場・砧サッカー場では令和2年3月に新事務所完成となり、仮設事務所からの引越も無事に終わりました。新事務所には、「だれでもトイレ」、更衣・シャワー室、授乳・給湯室などの設備が加わり利便性が向上し、早々に来場者には好評を頂きました。

しかし残念なことに、コロナ禍により砧野球場・砧サッカー場は4月5月、休場となりました。そうした中で砧では休場中いつでも再開できるように、グラウンド整備、芝の刈込、感染症拡大防止対策の準備を行ってまいりました。

6月1日より再開が決まりましたが、感染不安により利用者が減ってしまうのではないかと懸念がありました。しかし再開してみればその影響はなく、多くの方々が施設再開を熱望してくださった事に改めて気づかされました。

最後になりますが、ここに深く感謝申し上げますとともに皆様のご健康を心よりお祈りいたします。



東京都スポーツ功労賞

落合 康夫（日本スポーツマスターズ大会
—バドミントン競技—東京都代表チーム監督）



東京都功労者表彰（スポーツ振興功労）

松坂 孝司（目黒区剣道連盟理事長）



区政功労表彰

山本 昭治（目黒区バドミントン協会）
天野 聡士（目黒区バドミントン協会）
藤木 太郎（目黒区水泳連盟）
岡野 禮子（目黒区ティーボール連盟）



東京都体育協会表彰

生涯スポーツ功労者
堀内 謙治（目黒区テニス協会）
生涯スポーツ優良団体
目黒区合気道連盟



【個人】天野 聡士
（目黒体育協会）
（敬称略 受付順）

【団体】なぎなた連盟
株式会社協栄

★賛助会員ご芳名

（1月末現在）

今般左記の方々から賛助会費のご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。
今後とも変わらぬご支援、ご協力の程お願い申し上げます。

中央体育館からのお知らせ

昨年9月より各種教室が再開されましたが、1月初旬の「緊急事態宣言」の再発出に伴い、宣言終了までの開館時間は午後8時までとなり、プログラムの変更が生じています。今後の対応等、詳しくは各体育館ホームページでご確認ください。



『月1回の「フランクリンメソッドによる健康講座」—秋の教室より』



令和2年度 砧グラウンドで行われたイベント



① 『少年サッカー近隣地区交流大会』

五本木フットボールクラブ

代表・監督 石井 喜一

2020年8月22日・23日、目黒区砧サッカー場2面を使用し、「少年サッカー近隣地区交流大会」を開催いたしました。

五本木FC主幹で行うサマーカップは12回目となります。横浜市や世田谷区など全12チームを2グループに分け、リーグ戦で順位を決めて、グループ順位毎に最終決戦を行います。今大会も団体競技ならではのチームワーク、個人技術レベルの高さ、勝敗を競う闘争心、全選手が真向きにボールを追い駆ける姿を間近で観ることができ、一指導者として大変嬉しく思いました。

毎年この時期は残暑も厳しく、また今回はコロナ禍ということで、熱中症対策十コロナ対策を講じての開催となりましたが、無事に大会を終えることができました。関係各所の皆様におかれましては多大なご協力を賜りましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今後選手たちの良い経験の場となるよう、交流大会を続けて参りたいと思っておりますので引き続きよろしくお願い申し上げます。



『検温し、試合まではマスク着用で』

(2) 『親子でソフトボール大会』

目黒ベガサス 保護者 田中 華奈子

小雨が降り、肌寒さを感じる秋の日に行われたソフトボール大会。各チームともピッチャーはお母さんが交代で、キャッチャーはお父さんが担当し、守備は子供たちが活躍しました。

当日に向けて練習していたもの

いざマウンドに立つと、バッターの

気迫に緊張が高まりました。最初は

思うように投げられませんが、

息子の声援が力になり、また、打た

れても子供たちがしっかりと守備を

固めてくれていたため、失点を少なく抑えることができました。

ベンチに戻ると息子が両手を広げて駆け寄ってきてくれ、その時の嬉しそうな笑顔

が忘れられません。子供たちは毎回この緊張感の中で戦っているのかと改めて感心しました。

これからは試合後に息子の頑張りを褒めてあげたい、そして野球を通じた成長も見届けたいと思いま

した。

試合後は笑顔で帰る親子の姿が多くみられ、参加したご家庭にとって親子の絆が深まった思い出



『おかあさ～ん、がんばれ～!』

の一日になったことと思います。大会中は他のチームの選手、お父さん、お母さんと交流ができ、親子共々貴重な経験となりました。ありがとうございました。

(3) 『ふれあいスポーツ教室』

下目黒福祉工房 菊池 隼人

11月26日、ふれあいスポーツ教室当日は、ボールの体験と試合形式でゲームをしました。

昼食のお弁当は、お魚フライやハンバーグと卵焼きなどいろいろなおかずが入っていて、とても美味しく、また楽しく食べる事が出来ました。

新しくなった管理事務所はとても綺麗で感動致しました。是非また利用したいと思えます。

体を動かせる場所があり、

利用者一人一人がいきいき

と過ごせて貴重な体験でした。

ふれあいスポーツに参加して、関係者

の方には新型コロナウイルスの中グラウンドを開放して頂き、心より感謝します。



『よーし、ヒットを打つぞ!!』

生涯スポーツ大会に参加して

都民生涯スポーツ大会は、都民のスポーツ愛好者の中で、特に中高年者を対象とした大会です。今年はCOVID-19の影響で、武道競技などでは夏前から中止も始めていました。各市区町村から満35歳以上の男女が参加できる水泳大会は、なんとか予定どおり10月10日に辰巳国際水泳場で開催されました。

しかし、感染症予防策として、選手は大会2週間前から毎日体温測定し、記録しなければならず、大会当日は、会場入り口の検温と調査票提出が義務付けられ、応援者は入場できませんでした。さらに、プールサイドでも泳ぐ直前までマスク着用で、スタート台付近でも消毒液を使用しての開催でした。

拍手のみの声援ではありましたが、男子自由形リレー(50m×4名)は、惜しくも3位入賞にあと一歩という4位、個人種目では、3種目で1位を獲得し、合計9枚の賞状を獲得できました。

新型コロナウイルスの影響により、練習場所を確保しながらの個人の練習となり、皆、本調子には至らなかった中で、リレーを含めなかなかの結果になったと思います。

生涯スポーツ大会水泳競技監督 久保 正三郎



『やっぱり、チームワークだね!』



1964 東京オリンピックの思い出



昭和39年は、私が教師として区立第四中学校へ転勤し、第二学年を担当した年でした。オリンピック会場へ引率はしたものの、半世紀以上経っていますので、記憶が定かではないため、当時の教え子で、後にご夫妻となった二人に当時の思い出を語ってもらいました。

男子生徒：



「私のオリンピックの思い出は中学校二年生の時、学校の割当てで水泳競技に行かせてもらったことです。当時は確か希望ではなく割り当てられた種目だったと記憶しています。当時も水泳は花形でした。小学生の時は、1500メートル自由型の山中毅の泳ぎに夢中になり、山中選手はみんなのヒーローでした。そんな水泳でしたが当たったのは水泳でも「飛び込み種目」で、どんな競技かよくわかりませんでした。しかし、代々木のオリンピックプール場に入り、競技を見て、オリンピックの雰囲気を味わえたことは本当に幸運だったと思います。学校に感謝ですね。」

女子生徒：



「サッカーが当たりました。駒沢の競技場(現サブコート)に行き、見学したことを覚えています。サッカーはその当時蹴球といい、今ほどメジャーではなく、人気あまり無かったと思います。観戦の前に学校でルールの説明を受けましたが、よく理解できませんでした。今になって思うと、サッカーが当たったなんてラッキーだったはずでしたが、当時はちょっとがっかりしたことを思い出します。でも当日は屋外でとても天気の良い日で、楽しめました。私の友達は、最終日のマラソンが当たり、目の前で円谷選手が抜かれるのを見て興奮したそうです。『いいところを見たね』と、ちょっと羨ましかったことも記憶に残っています。」

二人の記録で、少々理解いただけたかと思えます。さて、「何故会場が駒沢だったの？」ということですが、駒沢とオリンピックの由縁は、昭和15年第12回オリンピック東京大会の会場に予定されていた神宮外苑競技場が、種々の点で不十分との判断により、砧・等々力方面が候補に挙げられたようです。当時ゴルフ場であった駒沢がメインスタジアム建設候補地となり、一部着工に入るも、日中戦争開始により工事中止となり、結局は幻の東京オリンピックとなったことは、皆さんご承知の通りです。それから何年も経て、1964年にオリンピック競技場としてやっと日の目を見るに至った、というわけです。

その駒沢競技場は今ではオリンピック記念公園となり、都民の憩いの場・災害



時の避難場所等々として利用されています。私個人としても、都や区の体育祭陸上競技大会で何度もそのレガシーの土を踏みましたが、目黒区では、昭和22年から始まった区立中学校のスポーツの祭典である「目黒区立中学校連合体育大会」が、オリンピック翌年の昭和40年度から駒沢競技場で開催されるようになりました。一つの学校がoneチームとなり、若い力を全面に出すチャンスを得て卒業していけることは、本当に素晴らしい宝です。

さて、本年予定されている東京オリンピック大会では、幼稚園児から高校生まで、観戦希望校には前回同様割り当てがあるようです。「スポーツで元気と笑顔の共有」は良いのですが、現地観戦に関してコロナウイルス感染防止、及び多方面にわたりスムーズに実現できることを願ってやみません。

目黒区水泳連盟会長 杉浦 重子

1964東京オリンピックにまつわるエピソードの連載は今回で一旦終了させていただきます。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。